

令和 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号		特 21		学校名		茨城県立結城特別支援学校								学校長名		坪松 久美子					
副校長名		菊池 秀之				教頭名		茅根 正史					事務（室）長名		木村 友紀						
教職員数		教 諭	85	養 護 教 諭	3	常 勤 講 師	22	非常勤 講 師	2	実 習 助 手	5	栄養 教諭	1	事務 職員	3	技術 職員	11	介護 員	1	計	137
児 童 ・ 生 徒 数	部・学科		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部		11	6	13	5	12	7	10	4	10	4	13	2	69	28	24				
	中学部		13	2	12	6	12	7							37	15	12				
	高等部・普通科		19	5	17	8	19	5							55	18	13				
	高等部ビジネス・ライフ科		7	2	2	6	10	0							19	8	5				
			計														180	69	54		

2 目指す学校像

- ◆安全・安心な教育環境づくりと豊かな心を育む教育を推進する学校
- ◆一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校
- ◆学校教育活動全体をとおしたキャリア教育を推進する学校
- ◆関係機関との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	○危機の予測に関するミニ研修やシミュレーション研修、配慮が必要な児童生徒の共有に取り組み、児童生徒が安心、安全に学習に取り組むことができるようにしている。 ○学校と家庭が連携して行う健康プロジェクトや散歩を促す体力協調月間の実	○安全点検や職員研修を通して、教室等の環境整備に取り組み、避難経路の確保に努める。 ○ヒヤリ・ハット事例を収集し、学校全体で共有しながらケガ防止に努める。 ○自ら健康・安全に生活することができる

	施、専門家と連携した食育研修など、健康の保持増進のための取り組みができている。子ども自らが健康への意識をもち、自分から気を付けて生活していけるようにする必要がある。 ○学校安全総合支援事業を通して、近隣地域と連携して防災教育に取り組んだことを生かし、連続性のある多様な学びへと展開していけるとよい。 ○上級生が下級生に教えたり、一緒に活動したりすることを通して互いに学び合い充実した学部間連携を図ることができている。卒業後の生活を見据えた系統的なキャリア教育の一層の充実を図っていく。 ○地域や企業と連携し、体験的な活動の充実に努めている。小・中・高それぞれの学部で取り組んできている活動がより充実した学習活動となるよう、学校運営協議員とともに熟議を行い、地域資源を活用した活動の充実に努めていく。 ○不登校や不登校気味の児童生徒への対応について、他学部の取組も含めた情報共有の場を月に 1 回設定し、効果的な支援方法の共有や支援会議の必要性について把握できるようにしている。 ○論点の整理や資料の事前提示など会議の効率化を図り、授業を充実させるための時間確保に努めている。会議以外についても効率的な業務の遂行に向けて改善していく。	よう保健指導の工夫に努め、望ましい生活習慣を身につけられるようにしていく。 ○防災教育について自分たちの生活に根付いていくよう、地域と連携した学びを継続して取り組んでいく。 ○小学部から高等部にかけて系統的な体験学習に取り組み、将来の進路選択につながる学びに取り組む。 ○学校や各学部の課題や方針を学校運営協議員と共有し、多角的な視点から協議することで教育活動の充実を図る。 ○登校に向けてのアプローチだけに偏らず、家庭の状況や児童生徒が抱える問題を整理していくとともに個別に応じた教育活動（学びの保障等）について検討していく。 ○校務の内容や活動計画を明確にし、相互に連携することができるよう業務内容の見える化の推進と段取り力の向上を図る。
学習指導	○障害の特性に応じた ICT 機器の活用や学習の理解を促す情報の視覚化など、学習場面や障害の状態に応じて ICT 機器を活用している。 ○資質・能力の三つの柱を踏まえた授業計画や授業改善を研修の形態を変えて取り組んでいる。目標と評価が一体化した教育活動の実践に向け、事例を蓄積し共有していく必要がある。	○教科の目標を押さえた授業づくりと教科指導の効果を高める ICT 機器の活用に努める。 ○資質・能力の三つの柱をバランス良く取り入れた単元計画や教科の見方・考え方を働かせる発問の工夫に努めるとともに、評価の視点を整理することで学習状況を適切に把握できるようにする。

4 中期的目標

- 1 安全・安心な教育環境づくりと豊かな心を育む教育を推進する。
- 2 一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る。
- 3 学校教育活動全体をととしたキャリア教育を推進する。
- 4 関係機関との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 安心して学べる教育環境	①健康の保持増進のための実践力の育成 ②地域の関係機関と連携した計画的な安全教育の実施 ③児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団づくりの推進
2 学習活動	①一人一人の学習状況に応じた指導の工夫（業務の精選と効率化） ②学習場面に応じた ICT（タブレット端末）活用の推進 ③「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の実施
3 キャリア教育	①小学部段階からの系統的なキャリア教育の推進 ②自己理解を深め、主体的な進路選択を促す指導の工夫 ③地域や企業と連携し、地域の資源を活用した体験活動の充実（コミュニティ・スクール）
4 センターの機能	①幼保、小・中学校、高校への要請に応じた支援の充実 ②専門家や地域の関係機関との連携強化（地域連携体制構築事業） ③地域への特別支援教育に関する積極的な情報発信